

なくて却つて資本主義崩壊の有力な因子となつてゐるのである。

然も今日の状況なるものゝ労働者に及ぼす影響は、烈しい労働強化と餘利價値の減少と二つなき追求による榨取である。資本家はこの状況に際して、労働者に労働の強化と長時間に亘る労働を強制し、失業者に就職の機会を與へない（労働豫備軍保持のために）しかも尚ほ労働力不足の場合は劣悪なる労働条件の臨時工として雇傭し（既定の解雇手當を支拂はず）血と涙によつてかち得たる労働条件低下を遂行しつゝ、あるのである。

茲に於て労働者の為さねばならぬ事は、極めて平凡な事ながら、この労働者の生活を防衛するために團結せねばならない事だ。そうして次第に崩壊期に迫る資本主義に對して、決定的斗争をなし得る斗争力を累積して行かねばならぬことである。

この平凡なことが、この重大期に於てしばしば忘れられてゐるのである。この平凡なことは真理である。そうして必ずなせねばならぬ労働階級の任務なのである。

### 戦線統一の諸問題

本年九月二十五日、東京芝浦會館に於て、「我が國労働階級が多年翹望せる労働組合戦線統一の礎石は置かれた」と宣言して日本労働組合會議は成立した。

この日本労働組合會議は總聯合を含む十一團體二十七万九千六百六十五名によつて成立した労働組合會議である。

然るに従成大會の翌二十六日、組合會議第一回評議員會に於て脱退を聲明した造船聯盟は、同月三十日浦賀の本部に中央委員會を開き、正式に脱退を決議するに至つた。その理由とする處は、組合會議に於ける全勞（及び東電）の無節操にして非友好的なるを指摘し、しかも組合會議は従うに量の大なるを欲するの餘り到底彼等を除外するの決意なきものであることと更に造船聯盟の始終一貫堅持し來つた日本精神を今後に於て、聊かも傷つくることなく日本労働組合會議と結盟を持續し得ざることをハッキリと首破したることによつて遂に脱退するに至つたのである。

かくの如きに至る過程に於て、全勞及び東電の態度は、労働組合會議規約の血條第③